

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【公表番号】特表2000-501716(P2000-501716A)

【公表日】平成12年2月15日(2000.2.15)

【出願番号】特願平9-521668

【国際特許分類第7版】

A 0 1 N 47/44

A 0 1 N 43/88

A 0 1 N 43/90

【F I】

A 0 1 N 47/44

A 0 1 N 43/88 1 0 1

A 0 1 N 43/90 1 0 3

A 0 1 N 43/90 1 0 4

A 0 1 N 43/90 1 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成15年11月28日(2003.11.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成15年11月 28日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第521668号

2. 補正をする者

名称 ノバルティス アクチェンゲゼルシャフト

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士 (7751) 石 田 敬



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙の通り補正する。

7. 添付書類の目録

請求の範囲

1通

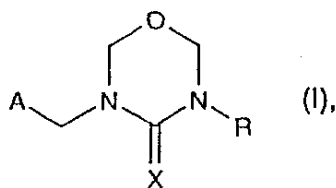


方 式 審 査



## 請求の範囲

1. 魚類寄生動物を制御するための、遊離形態もしくは塩形態の次式の化合物、又は適宜遊離形態もしくは塩形態のその互変異性体の利用：



(式中、

Aは未置換又はモノ～テトラ置換された芳香族又は非芳香族、単環式又は二環式複素環基である、ここでAの置換基のうちの1～2個はハロ-C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキル、シクロプロピル、ハロシクロプロピル、C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルケニル、C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルキニル、ハロ-C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルケニル、ハロ-C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルキニル、ハロ-C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルコキシ、C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキルチオ、ハロ-C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキルチオ、アリルオキシ、プロパルギルオキシ、アリルチオ、プロパルギルチオ、ハロアリルオキシ、ハロアリルチオ、シアノ及びニトロより成る群から選ばれることができ、そしてAの置換基のうちの1～4個はC<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキル、C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルコキシ及びハロゲンより成る群から選ばれることができ；

Rは水素、C<sub>1</sub>-C<sub>6</sub>アルキル、フェニル-C<sub>1</sub>-C<sub>4</sub>アルキル、C<sub>3</sub>-C<sub>6</sub>シクロアルキル、C<sub>2</sub>-C<sub>6</sub>アルケニル又はC<sub>2</sub>-C<sub>6</sub>アルキニルであり；そして

XはN-NO<sub>2</sub>又はN-CNである)。

2. Aが未置換又はモノ～テトラ置換された、芳香族又は非芳香族、単環式又は二環式複素環基である、ここでAの置換基のうちの1又は2個はハロ-C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキル、シクロプロピル、ハロシクロプロピル、C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルケニル、C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルキニル、ハロ-C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルケニル、ハロ-C<sub>2</sub>-C<sub>3</sub>アルキニル、ハロ-C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルコキシ、C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキルチオ、ハロ-C<sub>1</sub>-C<sub>3</sub>アルキルチオ、アリルオキシ、プロパルギルオキシ、アリルチオ、プロパルギルチオ、ハロアリルオキシ、ハロアリルチオ、シアノ及びニトロより成る群から

選ばれることができ、そして置換基Aのうちの1～4個はC<sub>1</sub> - C<sub>3</sub> アルキル、C<sub>1</sub> - C<sub>3</sub> アルコキシ及びハロゲンより成る群から選ばれることができ；

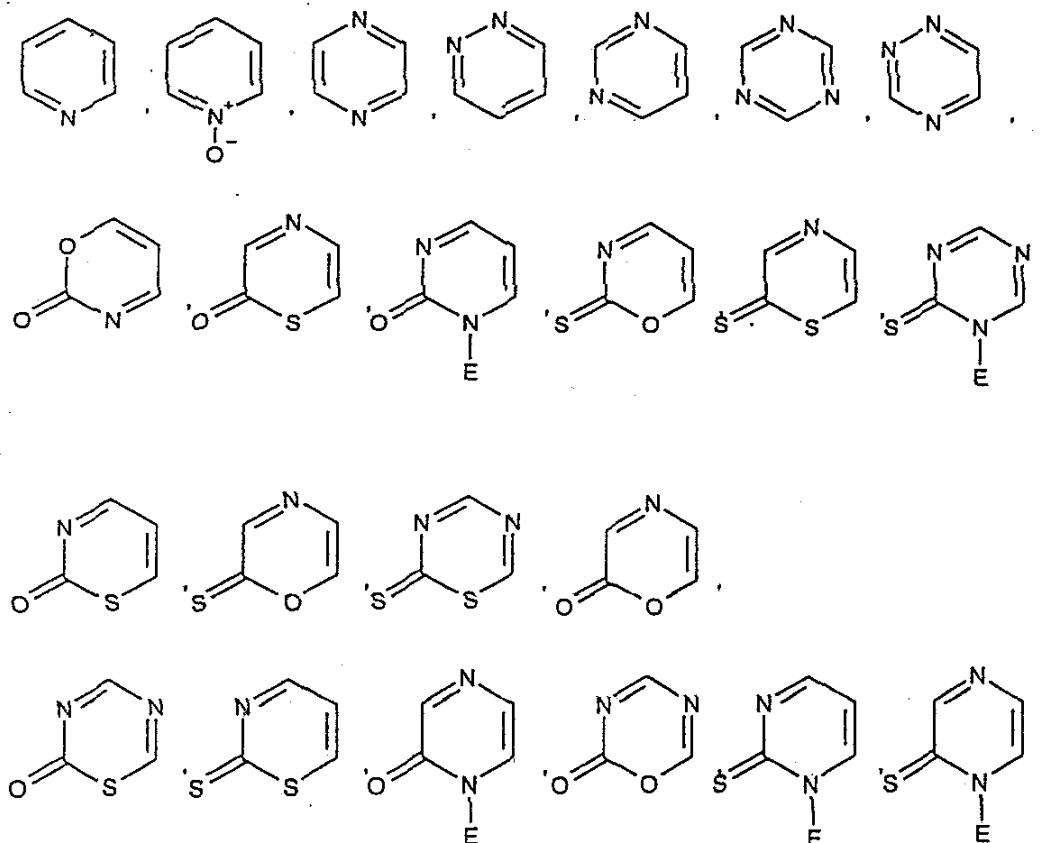
Rが水素、C<sub>1</sub> - C<sub>6</sub> アルキル、C<sub>3</sub> - C<sub>6</sub> シクロアルキル、C<sub>2</sub> - C<sub>6</sub> アルケニル又はC<sub>2</sub> - C<sub>6</sub> アルキニルであり；そして

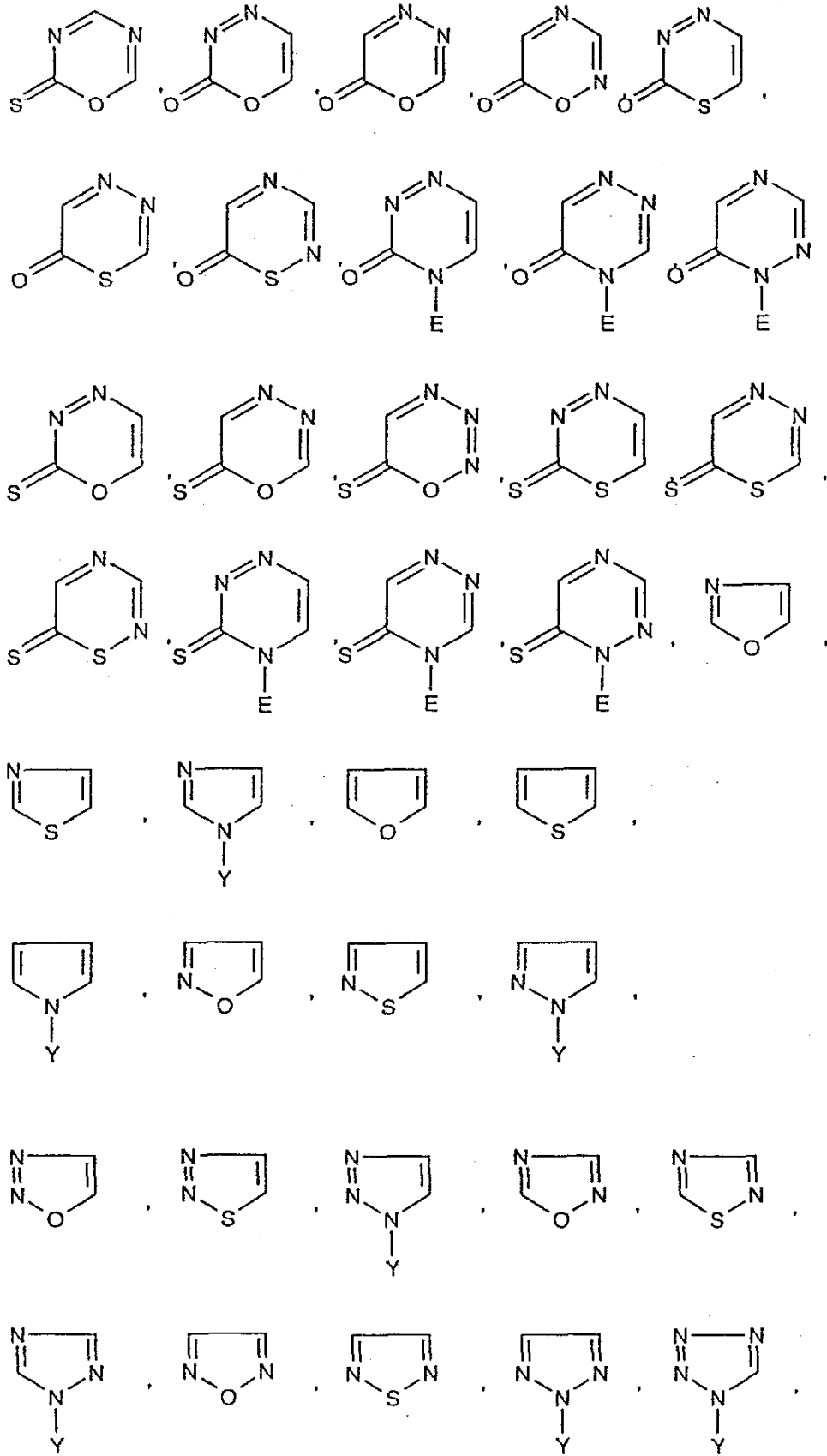
XがN-NO<sub>2</sub> 又はN-CNである式Iの化合物又は適宜その互変異性体の、請求項1記載の利用。

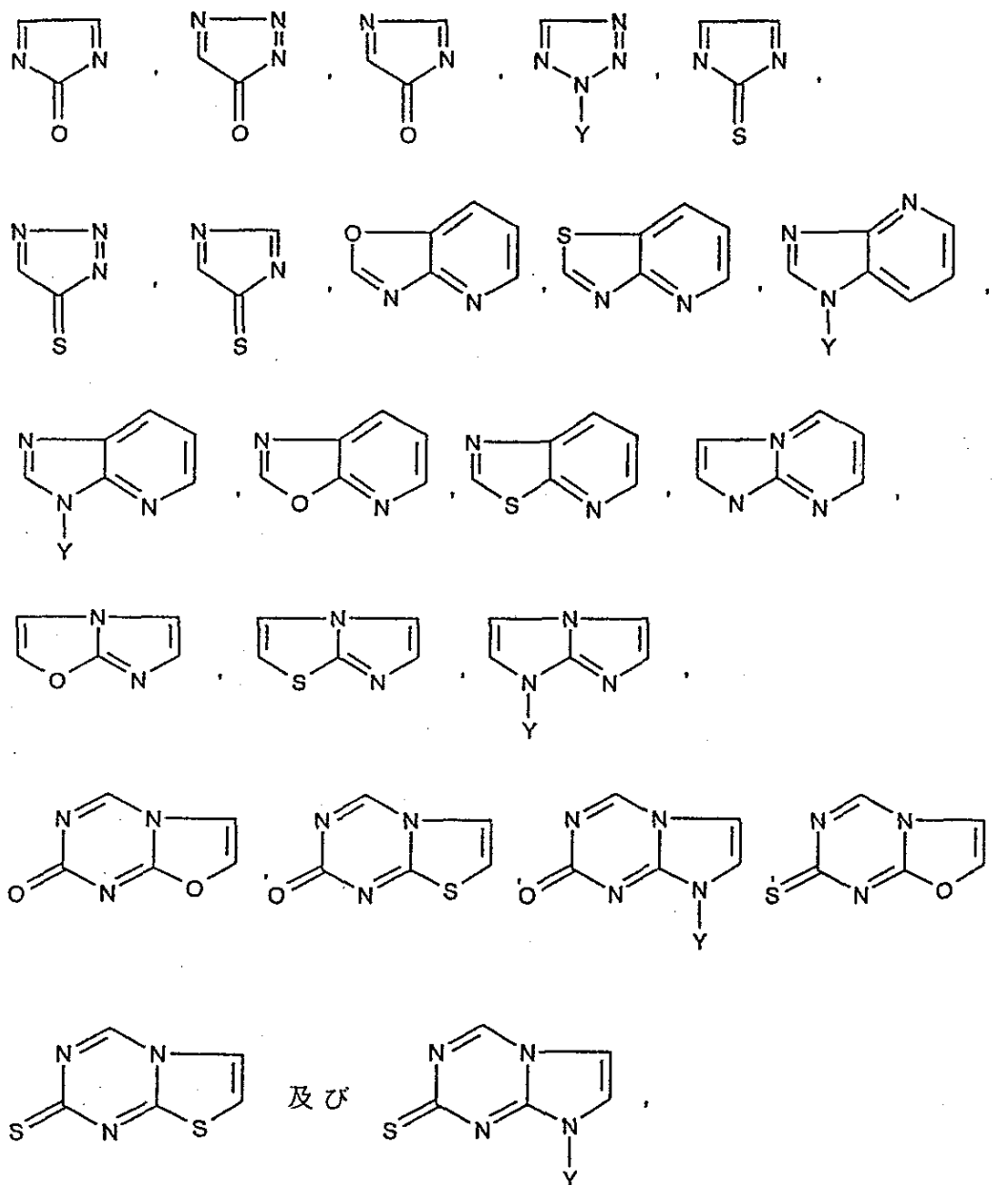
3. Aの塩基性環構造が、5又は6員環であり、且つそれに5又は6員環が縮合していることのある環より成る式Iの化合物又は適宜その互変異性体の、請求項1記載の利用。

4. Aの塩基性環構造が芳香特性を有する、式Iの化合物又は適宜その互変異性体の、請求項1記載の利用。

5. Aの塩基性環構造が次の塩基性環構造の群







(式中、Eはそれぞれにおいて $C_1 - C_3$  アルキルであり、Yはそれぞれにおいて水素、 $C_1 - C_3$  アルキル又はシクロプロピルであり、そしてE及びYはそれぞれAの置換基ではないがAの塩基性環構造の一部を成している) から選ばれる式Iの化合物又は適宜その互変異性体の、請求項1記載の利用。

6. Aの塩基性環構造が酸素、硫黄及び窒素より成る群から選ばれる1, 2又は3個のヘテロ原子を含み、その塩基性環構造内の1個以下のヘテロ原子が酸素原子であり、そしてその塩基性環構造内の1個以下のヘテロ原子が硫黄原子であ

る式 I の化合物又はその互変異性体の、請求項 1 記載の利用。

7. A が式 I の化合物の残部にその塩基性環構造の C 原子を介して結合している式 I の化合物又は適宜その互変異性体の請求項 1 記載の利用。

8. A が未置換であるか、又はハロゲン、 $C_1 - C_3$  アルキル、ハロー $C_1 - C_3$  アルキル、 $C_1 - C_3$  アルコキシ及びハロー $C_1 - C_3$  アルコキシより成る群から選ばれる置換基によりモノー又はジ置換されている式 I の化合物又はその互変異性体の請求項 1 記載の利用。

9. A の塩基性環構造がピリジル、1-オキシドピリジニオ又はチアゾリル基である、請求項 1 記載の利用。

10. R が  $C_1 - C_6$  アルキル、フェニル $C_1 - C_4$  アルキル、 $C_3 - C_6$  シクロアルキル、 $C_3 - C_4$  アルケニル又は  $C_3 - C_4$  アルキニルである式 I の化合物又は適宜の互変異性体の請求項 1 記載の利用。

11. X が  $N-NO_2$  である式 I の化合物又は適宜その互変異性体の請求項 1 記載の利用。

12. A が、式 I の化合物の残部にその塩基性環構造の C 原子を介して結合しており、且つ未置換であるか又はハロゲン及び  $C_1 - C_3$  アルキルより成る群から選ばれる置換基によりモノーもしくはジ置換されているピリジル、1-オキシドピリジニオ又はチアゾリル基であり、R が  $C_1 - C_6$  アルキル、フェニル $C_1 - C_4$  アルキル、 $C_3 - C_6$  シクロアルキル、 $C_3 - C_4$  アルケニル又は  $C_3 - C_4$  アルキニルであり、そして X が  $N-NO_2$  又は  $N-CN$  である、式 I の化合物の請求項 1 記載の利用。

13. A が 2-クロロピリド-5-イル、2-メチルピリド-5-イル、1-オキシド-3-ピリジニオ、2-クロロ-1-オキシド-5-ピリジニオ、2, 3-ジクロロ-1-オキシド-5-ピリジニオ又は 2-クロロチアゾル-5-イル基であり、R が  $C_1 - C_4$  アルキルであり、そして X が  $N-NO_2$  である式 I の化合物の請求項 1 記載の利用。

14. A が 2-クロロチアゾル-5-イル又は 2-クロロピリド-5-イル基であり、R が  $C_1 - C_4$  アルキルであり、そして X が  $N-NO_2$  である式 I の化合物の請求項 1 記載の利用。

15. (a) 5-(2-クロロピリド-5-イルメチル)-3-メチル-4-ニトロイミノパーヒドロ-1, 3, 5-オキサジアジン; (b) 5-(2-クロロチアゾル-5-イルメチル)-3-メチル-4-ニトロイミノパーヒドロ-1, 3, 5-オキサジアジン; (c) 3-メチル-4-ニトロイミノ-5-(1-オキシド-3-ピリジニオメチル)パーヒドロ-1, 3, 5-オキサジアジン; (d) 5-(2-クロロ-1-オキシド-5-ピリジニオメチル)-3-メチル-4-ニトロイミノパーヒドロ-1, 3, 5-オキサジアジン;及び(e) 3-メチル-5-(2-メチルピリド-5-イルメチル)-4-ニトロイミノパーヒドロ-1, 3, 5-オキサジアジン;の化合物より成る群から選ばれる式Iの化合物の請求項1記載の利用。

16. 前記魚がサケ科である、請求項1記載の利用。

17. 前記魚がサーモン・サラ、サーモン・トルッタ、サーモン・ガイルドネリ、オンコリンチャス・ゴルブツシャ、オンコリンチャス・ケタ、オンコリンチャス・ネルカ、オンコリンチャス・キスチュ、オンコリンチャス・シャウイシャ、オンコリンチャス・マムソン (O. mamson)、サリベヌス種及びサルモ・クラルキイより成る群から選ばれる代表物である、請求項16記載の利用。

18. 前記寄生動物が橈脚綱に属する、請求項1記載の利用。

19. 前記寄生動物がレペオフセイルス又はカリガス種に属する、請求項18記載の利用。

20. 前記寄生動物がレペオフセイルス・サルモニス又はカリガス・エロンガトウスである、請求項19記載の利用。

21. 前記活性物質の濃度が 0.005~2 ppm である、請求項1記載の利用。

22. 前記活性物質の濃度が0.01~1 ppm である、請求項21記載の利用。

23. 前記活性物質の濃度が0.05~0.5ppmである、請求項22記載の利用。

24. 寄生動物を請求項1記載の少なくとも一種の活性物質で処理することを含んで成る、魚類寄生動物を制御するための方法。

25. 前記活性物質の濃度が 0.005~2 ppm である、請求項24記載の方法。

26. 前記活性物質を寄生動物の周囲の水に溶解させる、請求項24記載の方法。

27. 前記活性物質を寄生動物の周囲の水に希釈形態で溶解させる、請求項24記

載の方法。

28. 前記活性物質を魚に与える餌に加える、請求項24記載の方法。

29. 前記活性物質を魚にピルの形態で与えることを含んで成り、ここでその外部コートは前記活性物質を完全に被覆する魚餌組成物より成りうる、請求項28記載の方法。

30. 商業的なサケ及びマス生産に利用する、請求項24記載の方法。

31. 魚類寄生動物を制御するための組成物の調製のための、請求項1記載の式Iの化合物又は適宜その互変異性体の利用。

32. 少なくとも一種の請求項1記載の活性物質を含んで成る、魚類寄生動物を制御するための組成物。